

保育の営み 「自ら育とうとするものを育たせようとする

保育のスタートであるO歳児クラスの子どもたちと過ごしていると、この言葉がぴったりだと思わされる。

子どもは能動性を発揮して過ごしている。 ・昨日より今日、そして明日へ伸びていく姿

2

幼児期の教育は「環境による教育」 ・子どもたちの身近にある環境に自ら働きかけ、さまざまに感じ取り遊ぶ生活



本日の研修内容

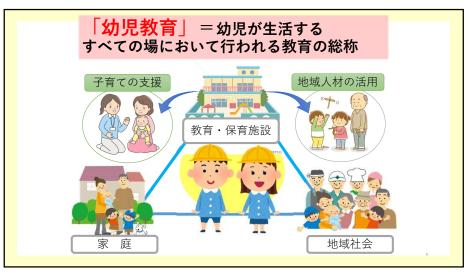
1. 幼児教育(就学前教育)の方向性 0~5歳児の保育共通事項(指針・要領等の理念 他)

2. 子ども主体の養護と教育が一体となった保育実践 子ども理解と保育の見通し 子ども一人一人を生かす指導計画 実践そして振い返い(事例演習含む)

3. "自ら学ぶ" 保育者 子どもの育ち・学びの保障と保育の質の向

乳幼児教育•保育 O歲児~5歲児共通事項

~指針・要領の理念~



国の幼児教育の方向性
【令和の幼児教育】
日本のすべての幼児が
良質な幼児教育さらに保育を

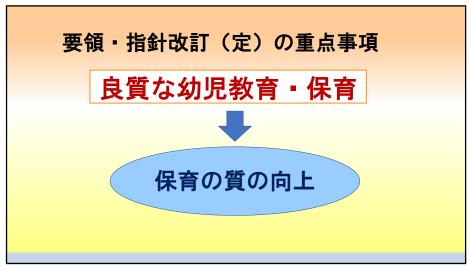
「意園の保育は良質な保育に向かっているでしょうか!

5

幼児教育の質に関する認識の課題

- ① 早期教育や小学校の前倒しを行うことが 質の高い教育と誤解されることがある。
- ② 遊びを通じて学ぶという幼児期の特性を 踏まえた教育がその後の教育を培ってい るという理解が低い
- ③ 発達の連続性の重要性に関する理解が 必ずしも十分でない現状

中央教育審議会 初等中等教育分科会 幼児教育と小学校教育 の架け橋特別委員会第3回会議 論点整理のたたき台(案)



7

Q

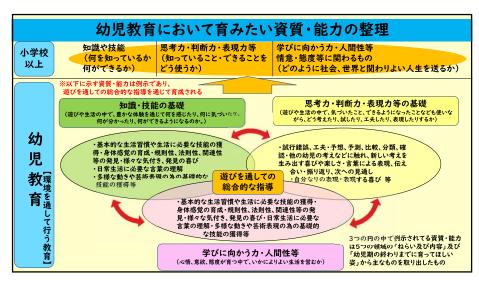


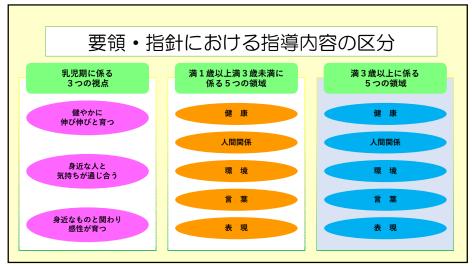


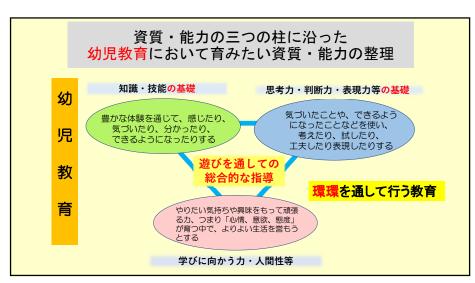




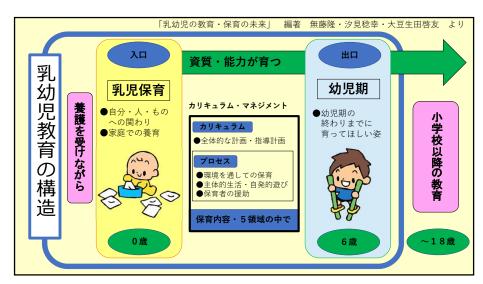






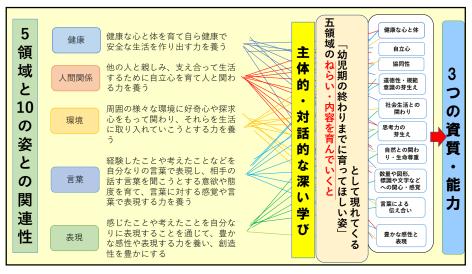












幼児教育の基本

1 幼児期にふさわしい生活

- ・保育者との信頼関係に支えられた生活
- ・興味関心に基づいた直接的な体験が得られる生活
- ・友達と十分関わって展開する生活

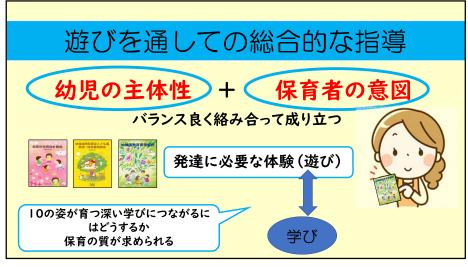
2 環境(遊び)を通しての総合的な指導

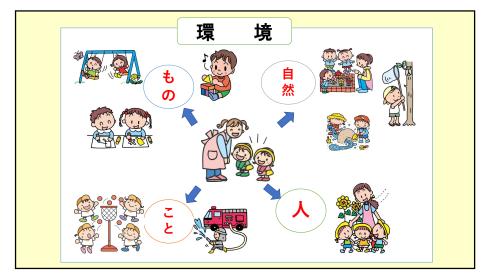
・興味・関心のある主体的な遊び環境の構成と援助

3 一人一人の発達に応じた指導

・個々の発達・個人差に応じた対応

21 22





23



幼児の主体性とは何か

- ①「いつ」・・・・興味・関心・意欲
- ②「どこで」・・・信頼関係 見通し
- ③「誰と」・・・・友達関係 発達
- ④「どのように遊ぶか」・・・・興味・関心・発達・見通し
- ⑤「いつ終わるか」・・・・達成感・納得・継続



26

※ 決定するのは子どもである!

「色水遊び」を例に主体的な学びを考える

保育者主導

幼児主体

保育のねらい

感性を育てるために色水遊びをしよう!

① 色水を作って遊ぼう

(なぜ今やるんですか?)

② 〇〇の花を使っていいよ

(他にもお花はありますよ)

③ こんな風にやってみたら

(このやり方であっている?)

④ この道具で色水が作れるよ この容器を使っていいよ

(この道具だけでいいの?)

⑤ 色水遊びは、〇曜日まで!

(期限をつくるのはなぜ?)

保育のねらい

友達と楽しい色水遊びをしよう!

① ジュース屋さんをやってみる?

(発想力・創造性・企画力)

② 青い色水と赤い色水を合わせてみると どんな色になるのかな? (科学の眼と芽)

- ③ 紫色の色水を作るにはこの花を使おう (予想⇒自信⇒達成感)
- っと色を出すためにどの道具が必要
- ⑤ 明日は〇〇をやってみようか!

深い学びのある遊びとは

☆のめり込む姿 ☆遊び込む姿 ☆夢中になる姿

子どもがこの姿を見せたとき

子ども主体の 養護と教育が一体となった保育実践 <u>☆乳幼児理解→保育のねらい</u> ☆環境による教育→指導計画作成

求められる幼児理解(こども理解)



〇子どもは、身体的にも精神的にも未 熟な状態で生まれ、大人に保護され 養育される。

〇大人と子どもの相互作用が十分に 行われることにより、望ましい発育・発達を続け、人間として必要な事柄を身につけることができる。

〇人への信頼感と自己の主体性の形成が重要。

〇子どもは、大人によって生命を守られ、愛され、信頼されることによって、 自分も大人を愛し、信頼していくように なる。 ○乳幼児期は、人の一生のなかで最も著し い発育発達をとげる時期です。

○具体的にそれはどのような姿で現れるのか。具体的に乳幼児のイメージが描けることが大事。

〇基礎的な知識が単なる知識の習得にとどまらず、具体的なイメージをともなって理解できること。

○一人一人の個別の姿を、発育・発達の基本的な原則に照らし合わせることも大切。発育・発達の道筋には、どの子どもにも共通する一定の原理・法則がみられる。

29

求められる幼児理解(こども理解)

〇一人一人の子どもは、法則に従って、それぞれのペースで、それぞれ特有の姿をあらわ しながら成長していく。

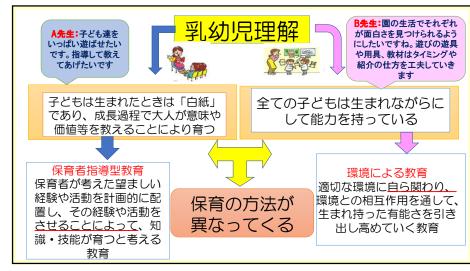
〇保育者の仕事は、日々保育をするなかで、一人一人の子どもが育つ姿を注意深く読み取り、子供があらわしている姿の意味を、発育発達の原則に照らして的確に理解することが基本である。

子どもを理解するために~発達をとらえる視点~

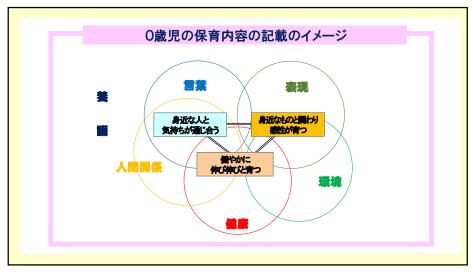
- ◆乳幼児の育つ姿に感動する「心」
- ◆事実をとらえる素直な「目」
- ①人はどんな環境の中で育っても発達する可能性を持っている。
- 可能性を持っている。 ②あらゆる子どもは、発達したいという願いを もっている。
- ③すべての人は、共通の発達の道筋をたどる。

幼児理解の柱

- ◆子どもの声に**聴き**入ること
- ◆子どもを<mark>みる</mark>こと
- ◆子どもから<mark>学ぶ</mark>こと



主体性の 発揮



0歳児の発達過程(保育所保育指針より)

《おおむね6か月未満》 《おおむね6か月から1歳3か月未満》

誕生後、母体から外界への急激な環境の変化に対応し、著しい発達がみられる。首がすわり、手足の動きが活発になり、腹ばいなど全身の動きが活発になる。視覚、聴覚などの感覚の発達がめざましく、泣く、笑うなどの表情の変化や体の動き、哺語などで自分の欲求を表現し、これに応答的に関わる大人との間に情緒的な絆が形成される。

座る、はう、立つ、伝え歩きといった運動機能が発達すること、及び腕や手先を意図的に動かせるようになることにより、、周囲の人や物に興味を示し、探索活動が活発になる。特定の大人との応答的な関りにより、情緒的な絆が深まり、あやしてもらうと喜ぶなどやりとりが盛んになる一方で、人見知りをするようになる。また、身近な大人との関係の中で、自分の意志や欲求を身振りなどで伝えようとし、大人から自分に向けられた気持ちや簡単な言葉が分かるようになる。食事は離乳食から幼児食へ徐々に移行する。

主体性の芽 生え

33

0歳児の子どもの姿

〇ごくごく飲んで、ぐっすり眠る

生活リズムが大切にされ、清潔で気持ちの良い 環境整えてもらうことで、生理的欲求、依存的欲 求が満たされ、生命の保持と情緒の安定が図ら れる。

〇だっこ 大好き

だっこで見つめ合う、にっこりと笑顔を交わす、や さしく話しかけてもらうなど、特定の保育者との愛 情豊かで応答的なかかわりにより、情緒が安定 する。

〇手足ぐんぐん・のびのび

首が据わり、寝返り、腹ばいなど、全身の動きが 活発になり、自分の意志で体を動かそうとする。

〇なんでも口に試してみたい

オッパイを吸って、たっぷり口唇の力を使う。気になるものがあると、口元へ持っていき、口の中で感触を確かめようとする。

〇ねえ、ねえ、こっち見て·喃語

泣く、笑う、喃語を発するなど自分の欲求を表現し、 特定の大人とかかわろうとする。

〇おんも、大好き!

安心できる人的・物的環境の下で、見たり触ったりする機会を通して、周りの環境に対する興味や好奇心が芽生えてくる。

〇先生がいるから遊べるよ

保育者に見守られて、玩具や身の周りのものに触れ て遊びを楽しむようになる。

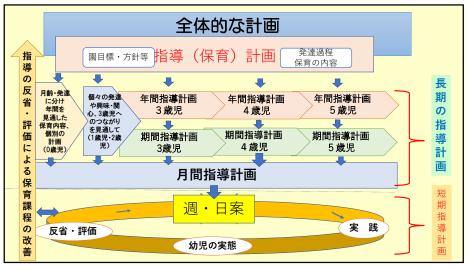


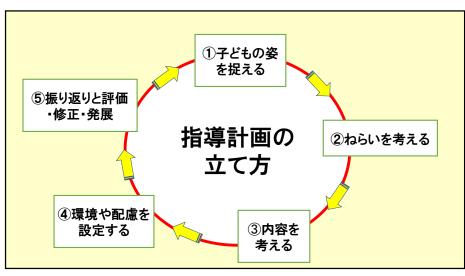
35



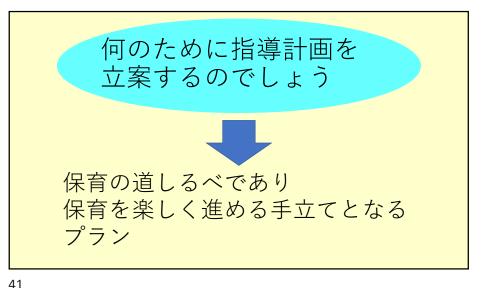
すべての園で 「全体的な計画」を作成しています 「全体的な計画」 教育•保育指導計画 園経営計画 ①教育•保育課程 ①園経営方針 ②長期の指導計画 2園務分掌 •年間指導計画 ③食育計画 •期間指導計画 4安全指導計画 •月間指導計画 ⑤子育て支援計画 ③短期の指導計画 6保幼小連携教育計画 •週間指導計画 ⑦年間行事計画

38

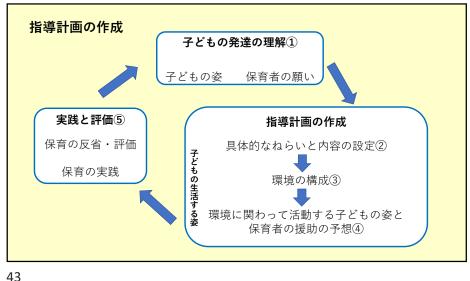




39



保育の計画と環境構成 幼児の主体性と保育者の意図 「幼児の主体性」と 「保育者の意図」とを バランスよく**遊びに**絡ませていく 発達に必要な体験





乳児保育の3つの視点

「健やかに伸び伸びと育つ」

健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力の基盤を培う

- (I) 身体感覚が育ち、快適な環境に心地よさを感じる。
- (2) 伸び伸びと体を動かし、はう、歩くなどの運動をしようとする。
- (3) 食事、睡眠等の生活のリズムの感覚が芽生える

「身近な人と気持ちが通じ合う」

受容的・応答的な関わりの下で、何かを伝えようとする意欲や身近な大人との信頼関係を育て、 人と関わる力の基盤を培う

- (1)安心できる関係の下で、身近な人と共に過ごす喜びを感じる
- (2)体の動きや表情、発声等により、保育教諭等と気持ちを通わせようとする。
- (3)身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感が芽生える。

「身近なものと関わり感性が育つ」

身近な環境に興味や好奇心をもって関わり、感じたことや考えたことを表現する力の基盤を培う

- (I) 身の回りのものに親しみ、様々なものに興味や関心をもつ。
- (2)見る、触れる、探索するなど、身近な環境に自分から関わろうとする。
- (3)身体の諸感覚による認識が豊かになり、表情や手足、体の動き等で表現する

「子どもの姿ベース」の指導計画をつくろう!

②ねらいを考える

「子どもの姿」から<u>育ちつつある部分</u>を踏 まえ、ねらいを立てます。

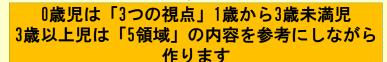
> ねらいは「今のこの子どもの姿」がどの ように変容してほしいか保育者の願い

45 46

「子どもの姿ベース」の指導計画をつくろう!

③内容を考える

「ねらい」に向かうために必要な経験 (活動)を考えます。



「子どもの姿ベース」の指導計画をつくろう!

4環境や配慮を設定する

「ねらい」「内容」に対して子どもが自ら「する」ために、 どんな環境・援助が良いのかを考え工夫しましょう。

保育者の援助の仕方は、その子やその場によって何通りもありますが、直接指示に頼らず、どんな環境、援助 で自発性が引き出せるのか、それを考えながら見つ けるのが保育者の"やりがい"になります。

個別的な計画の必要性

一人一人の成育歴・心身の発達・活動の実態に即して「個別的な計画」を作成されることが求められる。

保育所保育指針:指導計画の作成イー(7)

☆3歳未満児については、一人一人の成育歴、心身の発達、活動の実態に即 して個別的な計画を作成すること

幼保連携型認定こども園教育保育要領:指導計画の作成上の基本事項①ーア

☆指導計画は園児の発達に即して園児一人一人が乳幼児期にふさわしい生活を展開し、必要な体験が得られるようにするために、具体的に作成するものとする

子ども主体の 養護と教育が一体となった保育実践 ☆保育の振り返り

49

発達の実情と幼児理解

一人一人の発達を着実に促す 保育が生み出されているか

乳幼児が何を経験し、どのような力が身についているかという視点で反省・評価

園内研修の充実を図る

映像による 記録の活用 週案の幼児 の姿の変容 指導の過程 を振り返る 50

指導計画は1日の生活の振返りと評価で次の保育に生かす

PLAN 計画をたてる
(1クラス全体と個別の子どもの
生活を見て、実態を把握する。
(2成長発達の見通しのもとに
ねらいを設定する。

③ 環境構成とは、子どもの活動をイメージして
準備を整えること。
(3) 環境構成とは、子どもの活動をイメージして
準備を整えること。
(4) 興味を見せる子、見せない子、個別に援助を。
(5) 反省・評価を生かした新しい計画・立案へ
(5) その日のうちに記録を残す。

【保育の振り返り】

53

ねらいは、保育の振返りや評価をするときの視点として 参照していきましょう。

子どもの発達段階を理解したうえで、領域を考慮に入れると <u>どんな経験や遊びを増やしていくか</u>、<u>どんな環境を用意するのがよいか</u> が見えてきます。

保育記録を通して反省・評価 保育者としての幼児とのかかわりを振り返る



幼児理解をより深め、次の保育へ

写真をもとに語る

そこで見えてきたことを掲示
や通信を通して保護者や
学校に発信する

どのような学びがあったのか、
その意味を言語化することが重要

保育を振り返る
手がかりにする



"自ら学ぶ"保育者 子どもの育ち・学びの保障と保育の質の向上

55

保育者の仕事

- 1. 育む者としての保育者
 - (1)保育者の存在
 - (2)保育者の役割
- 2. 育まれ育つ者としての保育者
 - (1)保育者としての成長
 - (2)保育者の求められるもの

保育者の同僚性とカリキュラム・マネジメント

- 1. 保育の質を向上させる循環を作り出す・・・
- 2. 保育の質を向上させる方法としての・・・ (1)PDCAサイクル (2)目標管理
- 3. 自律的なカリキュラム・マネジメント
- 4. カリキュラム・マネジメントへの保育者の参画
- 5. カリキュラム・マネジメントを豊かにする同僚性

57 58





59